

授業科目名	ニューツーリズム論	担当教員	西崎 伸子 高橋 伸佳			
必修の区分	選択					
単位数	2 単位					
授業の方法	講義					
開講年次	1年 第3クオーター					
講義内容	本講義では、従来型の物見遊山的な大衆観光（マスツーリズム）がもたらす弊害を克服する目的で生じた、また、テーマ性が強く、体験型・交流型の要素を取り入れた「新しい観光」（ニューツーリズム・オルタナティブツーリズム）の展開過程を紹介する。とくに、日本を含む主要観光国における観光形態が多様化していることを体系的に把握できるように、具体的な事例（エコツーリズム、グリーン・ツーリズム、ヘルツーリズム、スポーツツーリズム等）を用いて示す。自然との共生・調和やオーバーツーリズムなど、ニューツーリズムの発展にともなって新たな課題についても検討する。オムニバス形式（一部共同）で講義し、今後の観光政策の進むべき方向性について受講生が考え、議論できるようにする。					
到達目標	① 日本を含む主要観光国における「新しい観光」の動向・産業としての可能性と課題・政策と制度に関する動向を理解できる。 ② 諸外国と比較した上で、日本の観光政策における「新しい観光」のあり方について考察し、自分の言葉で説明することができる。					
授業計画	1. ガイダンス：講義概要の説明（西崎・高橋） 2. 「新しい観光」の基本的理解 I：人類史と移動、観光（西崎） 3. 「新しい観光」の基本的理解 II：マスツーリズムからオルタナティブ・ツーリズムへの歴史的展開（高橋） 4. 国際観光における「新しい観光」の動向（国内）：日本の潮流、観光客到着数及び収入などの統計分析を用いた議論（高橋） 5. 国際観光における「新しい観光」動向（海外）：世界の潮流、世界観光客到着数及び収入などの統計分析を用いた議論（西崎） 6. エコツーリズム（国立公園、野生動物、二次的自然、地域住民）（西崎） 7. エスニックツーリズム（民族文化、住民参加型、写真）（西崎） 8. ホスト社会に資する観光：負の遺産、体験・交流型（西崎） 9. グリーン・ツーリズム：歴史と概念・定義、農山漁村余暇法、都市と農村漁村の共生・対流、国内外の取組み事例（高橋）★外部講師招聘予定 10. ヘルツーリズム：歴史と概念・定義、健康寿命延伸産業（経済産業省）、ヘルツーリズム認証制度、自然療法、健康学的效果、国内外の取組み事例（高橋） 11. スポーツツーリズム：歴史と概念・定義、推進基本方針（観光庁）、スポーツによる地域・経済の活性化（スポーツ庁）、東京オリンピック・					

	<p>パラリンピックレガシー、国内外の取組み事例（高橋）</p> <p>12. 授業内容のまとめと議論とまとめのテスト（西崎・高橋）</p>
事前・事後 学習	<ul style="list-style-type: none"> 普段から授業内容に关心をもち、さまざまな情報を収集し、読み解くこと 毎回の授業テーマ（各ニューツーリズム）に関連したキーワードについて事前に文献等で学習しておくこと。
テキスト	授業時に資料を配布する
参考文献	<p>大橋昭一他編「観光学ガイドブック」（2014）ナカニシヤ出版</p> <p>山下晋司編「観光学キーワード」（2011）有斐閣双書</p> <p>須藤廣、遠藤英樹著「観光社会学 2.0 拡がりゆくツーリズム研究」（2018）福村出版</p> <p>高橋伸佳「交流がつくる健康なまち～ヘルツーリズムによるヘルスケアビジネスまるわかり」JTBパブリッシング（2019）</p> <p>多方一成「グリーンライフ・ツーリズムへの創造—ニューツーリズムと着地型ツーリズム」芙蓉書房出版（2013）</p> <p>原田宗彦「スポーツ都市戦略：2020年後を見すえたまちづくり」学芸出版社（2016）に加えて、授業時に適宜参考書籍を紹介する。</p>
成績評価 の基準	<ul style="list-style-type: none"> 授業で学んだ内容に関するミニレポートや感想を作成し Google Classroom 等で提出する（50点）。 授業の最終回に「まとめのテスト」をおこなう（50点）。 <p>★出席が成績評価の前提条件になる。</p>
履修上の注意 履修要件	定員を超過した場合は抽選する。
実践的教育	該当しない。
備考欄	